

★就労支援部会「利用者の一般就労に向けて～送り出しの支援を考えるパート2～」グループワークシート

①「一般就労へ送り出す際の課題」に対してどのような支援が必要ですか？

【外部との連携】

- ・就業・生活支援センターと連携をとりつつ、周りの関係機関、計画相談や医療機関、主治医との意見の相違がないようソーシャルワーカーに間に入ってもらう。
- ・支援機関のサポートによる支援（ハローワーク、就労支援室、もしもしネット、ジョブコーチ）を利用する。
- ・就労する前々からナカポツや県の就労支援室に相談する

【事業所内で利用者に対し事前に支援できること】

- ・事業所内で経験→施設内就労→施設外就労→施設外支援と段階的にステップアップを目指していく。
- ・利用者自身、自分の事を伝えられるように（特性、配慮する点、アピールポイントなど）訓練していく。
- ・就労継続支援の環境に慣れた半面、自分自身で求人探して就労し戻ってくる方が多い。大きい目標をたて、短期の目標の達成を目指し、アセスメントを定期的に行っていく。
- ・仕事の覚えもあるが第1に毎日通える事が必須。生活リズムを整える支援を行う。
- ・困った時に質問するスキルを身につける。気持ちの切り替え（不安の減少、怒りの感情コントロール）が出来るよう支援していく。
- ・本人からヘルプを出す練習、訓練が必要。メモ、サインなどコミュニケーションカードの利用方法を習得していく。
- ・タイミングが違くと本人の不安になるため日常の業務、関わりのなかで見極めスムーズに移行していく。

【事業所運営や事業所として実施できること】

- ・事業所は職員の人手不足もある。関係機関等と連携し、情報収集しサポートしていくなど、部会でも情報を集約する。
- ・1日の作業内容や家族への本人の状況を定期で伝える必要性がある。
- ・本人が一般就労から戻って来た時に失敗ととるか、リカバリーと捉えるかで変わってくる。支援者の関わり方で今後の動きが変わる。振り返りを行い支援者と本人の意思を確認して取り組む。
- ・実習で会社側の支援体制を見る。
- ・年に1名の一般就労を目指しているが体験と実際の就労のギャップがあり見学、体験時に実際に見てやめる方もいる。企業選びも重要で、雇用経験がある企業から選ぶとよい。

【企業に対して望むこと】

- ・体験の時に複数の部署を経験できたら個々の適正にあった仕事を探しやすい。
- ・選考中の企業、負荷のある中での実習、事業所内での実践などその時で支援が変わってくる。本人の能力と企業側の支援スキルの両方が必要だと考える。
- ・企業との食事会などコミュニケーションの場で知ってもらう。

② ①で出された必要な支援を実施する上で考えられる課題はありますか？

【事象所内で利用者に対し事前に支援できること】

- ・求人票の見方では給料だけでなく休日、業務内容などもみるように伝える。
- ・本人に自分の状態を言語化する力が必要なためその機会を事業所内で作り、利用者の良いところ、改善するところを振り返りする。
- ・環境の変化に本人が慣れることができるか、本人のメンタルケアなどを重視したい。
- ・成功事例があれば事業所も利用者のモチベーションが変わるかもしれない。
- ・日頃より支援者と利用者のコミュニケーションが必要、信頼関係が築けると一般就労へ向けての相談や定着などその後のサポート体制も提案しやすい。本人も孤立しない。

【事業所運営や事業所として実施できること】

- ・一般就労への送り出し専従の職員、就労選択的支援の活用。
- ・TANOSHIKAでは一般就労課がある。
- ・支援者が一般就労へ移行していくことの意識が薄い。まずはそこを意識することから始める必要がある。
- ・全体的な支援力のボトムアップ、勉強会など実施し、統一した支援、見解が必要だと考える。
- ・事業所内で研修、周知をする時間を設ける。
- ・就労継続支援の日常の業務があり一般就労へむけてのサポートする時間がもてない。

【企業に対して望むこと】

- ・就労環境でどれだけのサポートがあるか知りたい。
- ・仕事できる人と比べて「自分は出来ない」となった時、自己肯定感低い方のモチベーションの上げ方は、慣れ親しんだ支援者の関わりや声掛けが必要だと考える。
- ・安定して働きだすために定期的に振り返りが必要だと感じる。振り返りを通してフォローしていくこと。
- ・在宅で就労されている方とはメールで文字のやりとりが多いため、定期に会うなど工夫が必要だと考える。
- ・担当者が変わることが問題だと感じることもある。（現場と採用担当の温度差を感じる。）
- ・施設外就労から採用になることもあり、これをシステム化して福祉から一般就労へ利用したら本人も安心できるし、会社も安心できるのではと考える。

【その他】

- ・実習中にフォローを行っても、事業所として工賃がゼロになってしまい運営に差し支える。